

秋田県埋蔵文化財センター一年報

44

令和7年度

2026・8

秋田県埋蔵文化財センター

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の
「岩偶」です。

縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

序

秋田県埋蔵文化財センターは、県内に所在する埋蔵文化財の調査と研究を目的として昭和56年に設立された公的調査研究機関です。県内で実施される国道、ダム建設等の公共事業に伴う遺跡の記録保存のための緊急発掘調査を行っており、その調査成果を基にした活用事業にも取り組んでおります。

令和7年度の緊急発掘調査事業は、秋田市1遺跡、由利本荘市1遺跡、横手市2遺跡の合計4遺跡で実施しました。秋田市の道女木遺跡では、雄物川中流の自然堤防上において、縄文時代の焼土遺構や中世のカマド状遺構といった火を使った痕跡が確認されました。幾度も洪水に見舞われながら長期にわたり同じ場所を繰り返し利用していた状況がうかがえます。近世を中心とする由利本荘市の岩ノ下遺跡からは、農業用水や生活用水として沢水を溜め使用していたことが想定できる溝跡や杭列が検出されました。近世陶磁器のほか、木簡、下駄、櫛、礫石経、鍬の柄と推定される木製品も出土し、集落内での暮らしの一端を垣間見ることができます。横手市の藤兵エ沢遺跡の調査結果は、縄文時代に横手沢周辺において狩猟採集や石器製作などの活動があったことを示していると考えられます。同じく横手市の大堤沢遺跡では、縄文時代の竪穴建物跡や焼土遺構及び貯蔵穴と考えられる土坑などが見つかりました。出土遺物には調理具や木工具・加工具は認められる一方、狩猟具・漁撈具がないことから、植物の採集と加工に重きを置いた活動を営んでいたと推測しています。

令和7年度の活用事業では、今年度の発掘調査の成果を県民へ情報発信する発掘調査報告会を開催し、合わせて県立図書館において出張展示「あきた遺跡発掘最前線2025」を実施しました。これらを通じて、一連の調査結果を公表する場を設けました。また、秋田拠点センター ALVEにおいて、立命館大学の矢野健一特任教授を講師として招聘した講演会を開催し、縄文時代から弥生時代への移行について、多様な視点から思いを巡らす機会を設けました。このほか、セカンドスクールや出前授業、出張展示など、各方面からの多くの要望に応じて参りました。

本書は、令和7年度に秋田県埋蔵文化財センターが実施した事業活動をまとめたものであります。

今後とも当センターの関連事業につきましては、より一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年3月

秋田県埋蔵文化財センター

所 長 大 泉 真

目 次

第1章	沿革	1
第2章	組織・施設	
第1節	組織	2
第2節	施設の概要	2
第3章	令和7年度のあゆみ	3
第4章	事業の概要	
第1節	発掘調査事業	
1	発掘調査一覧	
(1)	発掘調査	5
(2)	確認調査	5
(3)	整理	5
(参考)	教育庁弘田柵跡調査事務所	6
(参考)	市町村教育委員会等による 発掘調査一覧	7
2	発掘調査概要	
(1)	藤兵エ沢遺跡	8
(2)	大堤沢遺跡	10
(3)	道女木遺跡	12
(4)	岩ノ下遺跡	14
第2節	活用・普及事業	
1	活用・普及事業一覧表	16
2	遺跡現地見学会	17
3	展示	
(1)	常設展	17
(2)	企画コーナー展	17
(3)	あきた埋文出張展示	17
4	講演会・講座	
(1)	講演会	18
(2)	あきた埋文考古学セミナー	19
(3)	あきた埋文金曜講座	19
(4)	あきた県庁出前講座	20
(5)	埋蔵文化財発掘調査報告会	22
(6)	講座の動画配信	22

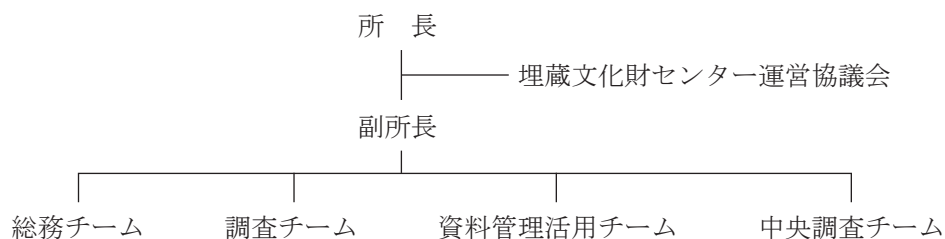
5	体験教室	
(1)	主な体験メニューと概要	23
(2)	オープンラボ	24
(3)	弘田柵跡の歩き方	25
6	学校利用・研修等	
(1)	セカンドスクールの利用	26
(2)	インターンシップ・職場体験	26
(3)	博物館実習	27
(4)	中堅教諭等資質向上研修	27
(5)	市町村教育委員会職員実務研修	27
7	貸し出し等	
(1)	貸し出しキット等	28
(2)	資料貸し出し	28
(3)	レファレンス	28
第3節	その他の活動	
1	図書整理・公開	
	全国文化財総覧への公開	29
2	刊行物	29
3	講演・研究論文等	31
4	職員研修会	
(1)	職員研修	32
(2)	職員技術研修会	32
(3)	職員研修	32
(4)	防災・避難訓練、救急救命講習	32
(5)	全国公立埋蔵文化財センター 連絡協議会北海道・東北ブロッ ク会議	32
第5章	運営協議会	
1	委員	33
2	事務局	33
3	第1回	33
4	第2回	34
令和7年度	職員名簿	36

第1章 沿革

昭和55年2月	秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表
昭和55年10月26日	建設工事開始
昭和56年8月31日	センター、第1収蔵庫完成
昭和56年10月1日	設置条例施行、職員発令、業務開始
昭和56年11月2日	落成記念式典挙行
平成5年1月	第2収蔵庫完成
平成10年4月2日	鷹巣町（現北秋田市鷹巣）に秋田北分室開設
平成11年12月20日	秋田市に秋田整理室開設
平成12年4月4日	秋田整理室が秋田中央分室となる
平成13年4月2日	機構改革により南調査課、北調査課、中央調査課の3課体制となる
平成13年6月20日	秋田県甘肅省文化交流事業により交流員の相互交流開始
平成14年3月2日	秋田県埋蔵文化財センター設立20周年記念式典挙行
平成15年10月17日	秋田県甘肅省文化交流事業磨嘴子遺跡合同発掘調査開始
平成15年10月30日	センター屋根、外壁、内部大規模改修工事
平成17年4月1日	男鹿市に中央調査課男鹿整理収蔵室開設
平成20年3月31日	北調査課、中央調査課閉課
平成20年4月1日	機構改革により総務班・調査班・資料管理活用班・中央調査班の4班体制となる。
平成22年7月1日	秋田市に中央調査班移転
平成24年3月6日	秋田県埋蔵文化財センター設立30周年記念式典挙行
平成28年9月4日	秋田県埋蔵文化財センター設立35周年記念講演会開催
令和3年	秋田県埋蔵文化財センター設立40周年記念式典 *新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。
令和5年9月15日	秋田県埋蔵文化財センター設立40周年記念コラム「土に聴け」（秋田魁新報社）発刊

第2章 組織・施設

第1節 組織



第2節 施設の概要

本所（総務チーム・調査チーム・資料管理活用チーム）

所在地 〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20番地

TEL 0187-69-3331 FAX 0187-69-3330

敷地面積 6,962.00㎡

本所建物 鉄筋コンクリート2階建 1,527.30㎡

第1収蔵庫 鉄骨造平屋建 360.00㎡

第2収蔵庫 鉄骨造平屋建 297.68㎡

電気・ポンプ室 平屋建 59.78㎡

中央調査チーム

所在地 〒010-1621 秋田県秋田市新屋栗田町11-1

TEL 018-893-3901 FAX 018-893-3899

建物 鉄筋コンクリート平屋建 2,141.00㎡

男鹿収蔵庫

所在地 〒010-0502 秋田県男鹿市船川港比喆字餅ヶ沢200

敷地面積 55,521.00㎡

建物 鉄筋コンクリート3階建 7,524.36㎡

第3章 令和7年度のあゆみ

【令和7年】

- 4月1日 新任式（本所・中央）
- 4月26日 企画コーナー展「埋文あきた発掘展」（～3/31）
- 5月23日 防災・避難訓練（中央調査チーム）
- 5月27日 藤兵エ沢遺跡発掘調査（～8/8）
- 6月3日 道女木遺跡発掘調査（～10/31）
- 6月6日 第1回金曜講座「山奥の縄文から古代」小松和平
- 6月8日 オープンラボ「バラフェスタ」（県立農業科学館）
- 6月9日 大堤沢遺跡発掘調査（～10/30）
- 6月12日 岩ノ下遺跡発掘調査（～8/27）
- 6月16日 高野台遺跡確認調査（～6/26）
- 6月19日 第1回運営協議会
- 6月27日 第1回職員研修会「女性の健康に関する研修」袴田道郎
- 7月3日 片貝家ノ下遺跡レーダー探査調査（～7/4）
- 7月4日 第2回金曜講座「払田柵跡と古代横手盆地」小山美紀
- 7月5日 考古学セミナー「子吉川流域の縄文時代」新海和広（由利本荘市文化交流館カダーレ）
- 7月12日 第1回出張展示「色で見るあきたの歴史」（県立図書館～8/12）
- 7月19日 道女木遺跡現地見学会
- 7月24日 オープンラボ（能代市立二ツ井図書館）
- 7月26日 体験教室「払田柵跡の歩き方」（史跡払田柵跡）
- 7月28日 オープンラボ（秋田市立桜小学校）
- 7月29日 オープンラボ（秋田市農山村地域活性化センターさとびあ）
- 7月30日 オープンラボ（仙北市田沢湖公民館）
- 8月1日 第3回金曜講座「縄文の囲炉裏」森谷康平氏
- 8月18日 盛岡大学博物館実習（～8/22）
- 8月19日 オープンラボ（美郷町めだか児童クラブ）
- 8月20日 オープンラボ（秋田県埋蔵文化財センター）
- 9月5日 第4回金曜講座「久保田城、家老の屋敷を掘る」宇田川浩一
- 9月9日 秋田大学、岩手大学インターシップ（～9/11）
- 9月13日 考古学セミナー「八郎潟沿岸の縄文時代」新海和広（秋田市農山村地域活性化センターさとびあ）
- 9月17日 仙北中学校職場体験（～9/19）
- 9月24日 前沢山遺跡確認調査（～10/3）
- 10月3日 第5回金曜講座「雄勝城、その実像に迫る」高橋学氏
- 10月4日 第2回出張展示「土器に生ける秋の草花展」（県立農業科学館～10/13）
- 10月13日 講演会「縄文時代から弥生時代への移り変わり」矢野健一氏（秋田拠点センターALVE）
- 10月15日 オープンラボ「払田柵跡ふるさと体験ワークショップ」
- 10月18日 大堤沢遺跡現地見学会

10月25日 オープンラボ「オータムフラワーフェスタ」（県立農業科学館）
11月1日 考古学セミナー「米代川流域の縄文時代」新海和広（鹿角市大湯ストーンサークル館）
11月4日 河童長根遺跡確認調査（～11/14）
11月5日 防災・避難訓練 救急救命講習
11月7日 第6回金曜講座「古代の火山災害と遺跡」村上義直
11月30日 オープンラボ（秋田市文化創造館）
12月5日 第7回金曜講座「縄文時代の文化交流」新海和広
12月19日 第2回職員研修会「土器復元作業研修」袴田道郎

【令和8年】

1月9日 第8回金曜講座「秋田の古代の瓦」結城智
2月6日 第9回金曜講座「横手市の発掘調査成果」藤原正大氏
2月9日 第2回運営協議会
2月18日 所内発掘調査報告会
2月28日 第3回出張展示「あきた遺跡発掘最前線2025」（県立図書館～3/10）
3月7日 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会（県生涯学習センター）
3月24日 オープンラボ（秋田市運動学習支援教室ふれんず秋田南教室）
3月27日 退任式・離任式

第4章 事業の概要

第1節 発掘調査事業

1 発掘調査一覧

(1) 発掘調査

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査期間	面積 (㎡)	主な時代：性格
1	藤兵エ沢遺跡	秋田自動車道の暫定2車線区間の4車線化事業 東日本高速道路株式会社	横手市前郷 5/27～8/8	1,000	縄文：狩猟場・石器製作場
2	大堤沢遺跡	秋田自動車道の暫定2車線区間の4車線化事業 東日本高速道路株式会社	横手市山内筏 6/9～10/30	1,223	縄文：集落跡
3	道女木遺跡	雄物川水系直轄河川事業 国土交通省（秋田河川国道）	秋田市雄和種沢 6/3～10/31	2,700	縄文・中世：集落跡
4	岩ノ下遺跡	鳥海ダム建設事業 国土交通省（鳥海ダム）	由利本荘市鳥海町百宅 6/12～8/27	1,300	中近世：集落跡

(2) 確認調査

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査期間	面積 (㎡)	主な時代：性格
1	高野台遺跡	鳥海ダム建設事業 国土交通省（鳥海ダム）	由利本荘市鳥海町百宅 6/16～6/26	17,500	古代：集落跡
2	前沢山遺跡	鳥海ダム建設事業 国土交通省（鳥海ダム）	由利本荘市鳥海町百宅 9/24～10/3	2,000	縄文：集落跡
3	河童長根遺跡	地方道路交付金事業（改築） 川添下浜停車場線 県道路課	秋田市下浜羽川 11/4～11/14	4,240	縄文：集落跡 平安：散布地
4	片貝家ノ下遺跡	保存目的調査事業 県産業集積課	大館市比内町片貝 7/3～7/4	5,000	平安：集落跡・耕作地

(3) 整理

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査年度	面積 (㎡)	主な時代：性格
1	立浪遺跡	国道13号横堀道路事業 国土交通省（湯沢河川国道）	湯沢市下院内 令和4・5年度	7,900	縄文：石器製作場・墓域 弥生：墓域
2	大鍋遺跡	国道13号真室川雄勝道路事業 国土交通省（湯沢河川国道）	湯沢市上院内 令和4年度	850	縄文：野営地
3	ヲフキ遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町大砂川 令和3・4・5年度	2,100	縄文：集落跡・墓域
4	大南遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町大須郷 令和3年度	2,500	縄文～近世：散布地

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査年度	面積 (㎡)	主な時代：性格
5	寺沢遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町小砂川 令和5・6年度	3,300	縄文：狩猟場 平安：生産遺跡
6	福島遺跡	交通安全対策事業（通学路対策） 県道路課	羽後町足田 令和5年度	3,220	縄文：集落跡
7	本町遺跡	地方街路交付金事業都市計画道路八幡根岸線 県都市計画課	横手市本町 令和6年度	1,292	古代：集落跡 中世：集落跡 近世：城下町
8	虫内Ⅰ遺跡 （第2次）	秋田自動車道暫定2車線区間4車線化事業 東日本高速道路株式会社	横手市山内土渕 令和6年度	235	縄文：墓域
9	上野乙遺跡	県単道路改築事業主要地方道角館六郷線 県道路課	仙北郡美郷町土崎 令和6年度	690	縄文：墓域
10	大巻Ⅰ・Ⅱ 遺跡	雄物川水系直轄河川改修事業 国土交通省（秋田河川国道）	秋田市雄和新波 令和4・5年度	8,020	縄文：集落跡 平安：集落跡 中世：集落跡
11	大道遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町関 令和5年度	2,600	縄文：集落跡
12	坂三塔遺跡	一般県道植田平鹿線建設事業 県道路課	横手市十文字町越前 令和5年度	850	縄文：集落跡
13	上宮ノ沢遺跡	地方道路交付金工事一般国道101号建設事業 県道路課	男鹿市男鹿中山町 令和6年度	720	縄文：集落跡
14	道女木遺跡	雄物川水系直轄河川事業 国土交通省（秋田河川国道）	秋田市雄和種沢 令和6・7年度	5,100	縄文・中世：集落跡
15	岩ノ下遺跡	鳥海ダム建設事業 国土交通省（鳥海ダム）	由利本荘市鳥海町百宅 令和6・7年度	5,000	中近世：集落跡
16	藤兵エ沢遺跡	秋田自動車道の暫定2車線区間の4車線化事業 東日本高速道路株式会社	横手市前郷 令和7年度	1,000	縄文：狩猟場・石器製作場
17	大堤沢遺跡	秋田自動車道の暫定2車線区間の4車線化事業 東日本高速道路株式会社	横手市山内筏 令和7年度	1,223	縄文：集落跡

（参考）教育庁弘田柵跡調査事務所

No.	遺跡名	調査目的	所在地 調査期間	面積 (㎡)	主な時代：性格
1	史跡弘田柵跡 （第159次）	遺構内容確認調査	大仙市弘田・美郷町本堂城回 6／2～8／1	103.5	平安：城柵官衙跡

(参考) 市町村教育委員会等による発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査主体	調査面積 (㎡)	調査目的・事業名等
		調査地	調査期間	主な時代：性格
1	鉄砲平Ⅱ遺跡	鹿角市教育委員会	117	詳細分布
		鹿角市花輪	10/24～11/14	弥生・古代：性格不明
2	史跡檜山安東氏城館跡（檜山城跡）	能代市教育委員会	35	保存目的
		能代市檜山古城	4/14～5/30	中近世：城館跡
3	史跡秋田城跡（第121次）	秋田市立秋田城跡歴史資料館	39	現状変更判断
		秋田市寺内兎桜	5/1～5/30	奈良・平安：城柵官衙遺跡
4	史跡秋田城跡（第122次）	秋田市立秋田城跡歴史資料館	274	内容確認調査
		秋田市将軍野南	5/7～11/12	奈良・平安：城柵官衙遺跡
5	史跡秋田城跡（第123次）	秋田市立秋田城跡歴史資料館	115	内容確認調査
		秋田市寺内高野	6/30～11/11	奈良・平安：城柵官衙遺跡
6	井岡遺跡隣接地	由理柵・駅家研究会	50	学術調査
		由利本荘市西目町西目	9/27～10/12	古代：遺物包含地
7	八柏村表遺跡	横手市教育委員会	5,650	県営ほ場整備事業
		横手市大雄八柏	5/1～7/31	平安：集落跡
8	造山遺跡（第3次）	雄勝城・駅家研究会	187	学術調査
		横手市雄物川町造山	7/31～10/17	古代：集落跡
9	上掬遺跡	東成瀬村教育委員会	100	学術調査
		東成瀬村田子内	8/19～9/6	縄文：集落跡

2 発掘調査概要

(1) 藤兵エ沢遺跡

①調査要項

所在地	秋田県横手市前郷字藤兵エ沢
調査期間	令和7年5月27日～8月8日
調査面積	1,000㎡
遺跡の時代	縄文時代
遺跡の性格	散布地、狩猟採集地
事業名	秋田自動車道の暫定2車線区間の4車線化事業
事業関係機関	東日本高速道路株式会社
調査担当	久住駿介、赤星純平

②調査概要

検出遺構			主な出土遺物	
縄文時代	土坑	1基	縄文時代	土器
	陥し穴	1基		石器（石匙、石筥等）
				礫石器（石皿、凹石）

藤兵エ沢遺跡は、JR横手駅から南東に約2.9km、秋田県平鹿地域振興局から南へ約2.5kmの雄平東部広域農道（雄平フルーツライン）沿いの東側に位置し、南から北方向に横手川へ流れる横手沢の谷底地形を形成する底位段丘面に立地する。周辺の縄文時代の主な遺跡としては、横手沢に沿って北側に約2kmほどの丘陵部に、縄文時代前期の遺物包含地である西ヶ坂遺跡と大乘院塚遺跡、縄文時代晩期の遺物包含地である三井寺遺跡が存在する。

調査の結果、土坑1基と陥し穴1基を検出した。いずれも調査区内で微高地となっている西側に作られている。遺構の規模は、土坑は直径約60cmのほぼ円形で深さ16cm、陥し穴は、直径約3m、短径約1.9mの楕円形で深さは約90cmであった。

遺物は、縄文時代前期と考えられる石器と縄文時代後期の土器が出土した。

石器は、石匙と石筥といった製品に加えて、剥片や残核が見つまっている。横手沢では、石器の材料となる珪質頁岩の原石が採取できることから、周辺部で得られた石材を本遺跡に持ち込み、石器を製作していたものと考えられる。

土器については遺構外出土であるため、遺跡の中での位置づけについては今後の検討課題になるが、縄文時代後期にも横手沢周辺で活動があったことを示している。

本調査に先立って、令和4年に遺跡の南を通る秋田自動車道から北に向かい約850mの範囲を試掘調査しているが、見つかったのは本遺跡のみで分布は薄い。

これらの調査成果から、藤兵エ沢遺跡は縄文時代に横手沢を狩猟採集や石器製作といった生業の場として利用していた場として位置づけられる。

今後は、縄文時代における本遺跡と周辺の同時期の遺跡との関連性を踏まえながら、横手沢を含めた前郷地域一帯がどのように位置づけられるか検討していきたい。

調査区全景
(南から)



陥し穴完掘状況
(北西から)



縄文土器出土状況
(東から)



(2) 大堤沢遺跡

①調査要項

所在地	秋田県横手市山内筏字大堤沢
調査期間	令和7年6月9日～10月30日
調査面積	1,223㎡
遺跡の時代	縄文時代
遺跡の性格	集落跡
事業名	秋田自動車道の暫定2車線区間の4車線化事業
事業関係機関	東日本高速道路株式会社
調査担当	宇田川浩一、白石和己

②調査概要

検出遺構			主な出土遺物		
縄文時代	竪穴建物跡3棟	土坑6基	石器集中遺構1か所	縄文時代	土器 石器
	焼土遺構9基	土器埋設遺構1基			
	柱穴様ピット11基				

大堤沢遺跡は、横手盆地東側を区切る奥羽山脈の東側裾にある。東を丘陵、西を遺跡名の由来となった大堤沢に挟まれた標高174m前後の狭い段丘面に立地する。遺跡中央を浅い谷が北へ向かって走り、大堤沢に向かって西側へ開析された小さな沢に合流する。

遺跡の帰属時期は、約5,000～4,500年前の縄文時代中期、大木8a式期を主体とし、少量の大木7b式と後晩期の土器が含まれる。

調査の結果、竪穴建物跡3棟、土坑6基、石器集中遺構1か所、焼土遺構9基、土器埋設遺構1基、柱穴様ピット11基の合計31遺構を検出した。遺物は土器と石器が多く、特殊磨石と呼ばれる横断面が三角形の磨石が目立つ。

竪穴建物跡3棟は、20～30mの間隔をおいて三角形に配置されている。それぞれの建物跡の近くには、焼土跡と貯蔵穴と考えられる土坑が複数見つかった。

竪穴建物跡の内、直径6m前後の一般的な大きさを持つ2棟は、段丘縁辺の高い位置にある。直径8mの大形建物跡1棟は、遺跡中央を走る浅い谷の東側緩斜面にある。いずれの建物跡も浸食を受けて表土が削られたため、壁がほぼ失われていた。

他に石器集中遺構からは、ごく浅い土坑に埋納された2点のスクレイパーと多くの剥片が出土した。石材はすべて良質の珪質頁岩だが、スクレイパーの素材にはより珪化度の高い頁岩が使われている。これらを埋納したのは、将来の石材不足に備えるためだろう。

出土遺物には、先に取り上げた特殊磨石や大型石皿以外に、磨製石斧や石鎚、スクレイパー類もあるが、石鏃や石槍はない。調理具や木工具、加工具はあっても狩猟具・漁撈具がない。このことは大堤沢遺跡に住んだ縄文人が、採集に重きをおいた生業を営んだことを示唆する。集落の周りを伐採し、生活域の環境を整えることが同時に、根菜類や堅果類の生育に良好な環境を作り、それらを利用することで集落の持続性を高める循環型の生業を営んだと推測している。

空中写真
(東から)



竪穴建物跡
(真上から)



新旧土器片囲炉
(南から)



(3) 道女木遺跡

①調査要項

所在地	秋田県秋田市雄和種沢字道女木
調査期間	令和7年6月3日～10月31日
調査面積	2,700㎡
遺跡の時代	縄文時代、中世
遺跡の性格	集落跡（縄文時代、中世）、狩猟場（縄文時代）
事業名	雄物川水系直轄河川事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所
調査担当	武藤祐浩、磯村亨、櫻庭悦央、巴亜子、佐々木博之

②調査概要

検出遺構					主な出土遺物	
縄文時代	焼土遺構	431基	配石遺構	24基	縄文時代	縄文土器 土製品 石器 石製品
	陥し穴状遺構	3基	土坑	6基		
	碎片集中	9か所				
中世	竪穴状遺構	1基	カマド状遺構	2基	中世	陶器
	土坑	26基	柱穴様ピット	50基		

道女木遺跡は、秋田空港の南南西約3.5km、日本海に注ぐ雄物川の河口から南東約17.1kmの地点に位置する。県南東部から北西方向に流れる雄物川の右岸に形成された標高11～14mの自然堤防上に立地する。調査対象5,100㎡の内、今年度は昨年度調査区の上流側2,700㎡を調査した。

昨年度の調査結果から縄文時代と中世の複合遺跡であることが分かっていたが、昨年度と同様に表土を30cm程掘り下げると中世の竪穴状遺構やカマド状遺構、縄文時代中期と考えられる陥し穴状遺構が見つかった。また、より下の土層、地表下40cm～4mでは、焼土遺構431基、配石遺構24基、石器碎片集中9か所などが検出された。

焼土遺構は火を焚いたために周りの地面が赤く変色した痕跡だが、一つの焼土遺構の下に、褐色の間層を挟んで、別の焼土遺構が検出された所が複数ある。遺跡付近の地層は褐色の土層と砂層が交互に重なり、度重なる河川氾濫によって形成されたものと考えられる。焼土遺構間の層厚は10～60cm程と多様だが、ある時期の活動で焼土ができ、その後の河川氾濫により人々はこの場所から離れ、水がひいて安定した後、再びこの地で活動した結果と考える。

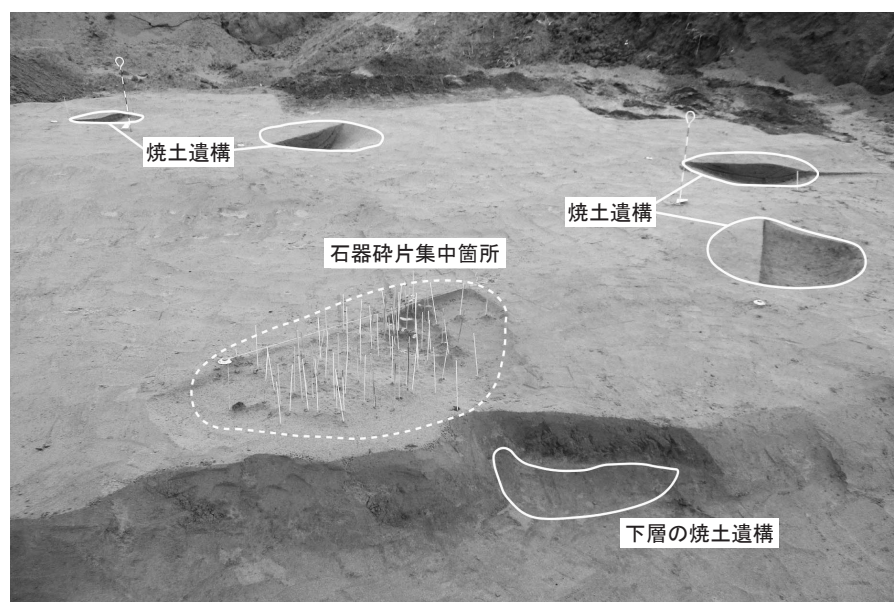
出土した土器には、器の内外面に縄文が施される早期後葉のものや、半分に割った円形竹管状の道具をコンパスのように使ってつけられた文様が印象的な前期前葉のものなどがある。この時期は、早期後半から温暖化が進み、前期前葉に現在よりも平均気温が2℃程高くなる時期にあたる。雄物川沿いの遺跡周辺も、この温暖化の中で、繰り返し大規模な河川氾濫があったと考えられる。

また、調査区内の地面を薄く削る作業を繰り返すとチャリチャリした手応えのある所があった。この手応えは1cmに満たない石器の碎片にあたったもので、その碎片に竹串を立てることで碎片の散らばった範囲を把握した。碎片に混じって石鏃の破片が出土することもあり、石器づくりが行われていたことを示すものである。

遺跡遠景
(南から)



焼土遺構と石器碎片集中箇所
の精査状況
(西から)



器の内外面に縄文がある
土器の検出状況
(北から)



(4) 岩ノ下遺跡

①調査要項

所在地	秋田県由利本荘市鳥海町百宅字岩ノ下
調査期間	令和7年6月12日～8月27日
調査面積	1,300㎡
遺跡の時代	中世、近世
遺跡の性格	散布地（中世）、集落跡（近世）
事業名	鳥海ダム建設事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局鳥海ダム工事事務所
調査担当	山村剛、巴亜子、乙戸崇

②調査概要

検出遺構			主な出土遺物	
近世	土坑11基 溝跡2条 柱穴様ピット235基	焼土遺構4基 杭列8条 自然流路1条	中世 珠洲系陶器 中国産青磁 近世 陶磁器（肥前、瀬戸・美濃） 銭貨 金属製品（キセル） 木製品（鋏の柄） 柱材	

岩ノ下遺跡は、由利本荘市鳥海総合支所直根出張所から南へ約3kmに位置し、子吉川支流百宅川右岸の標高396～398mの低地及び緩斜面に立地する。遺跡の70m南には百宅川が南東から北西に向かって流れ、2km先で子吉川に合流する。遺跡の南440mには中世城館の根井中後山館跡が、西1.8kmには近世の墓域が確認された清水沢遺跡が位置する。調査範囲は、地形改変により北側の上段と南側の下段に区分され、調査対象面積の5,000㎡のうち、今年度は上段部分の1,300㎡を調査した。

調査の結果、近世を中心とする時期の遺構・遺物が検出された。昨年度調査区東側で確認された溝跡は、長さ30m以上、最大幅7m、深さ約90cmの規模を有し、何度か作り替えが確認される。また、溝跡に伴う杭列が5条ほど検出された。杭列は溝と並行するだけではなく、一部は直交して配置されていることから堰が構築され、遺跡北側の谷から注ぐ沢水を流し、農作業や生活用水として使用していたことが想定できよう。

この溝跡からは、近世陶磁器のほか、木簡・下駄・櫛・礫石経などが昨年度調査で出土し、今年度調査では溝跡から鋏の柄と思われる木製品が出土している。これらの遺物は、集落内での生業に用いられた道具の一部と思われる。

中央部では柱材が良好に残存した柱穴が多数確認されていることから、掘立柱建物の存在が想定され、整理作業において建物の配列の検討を進めている。

西側では、4基の焼土遺構が確認され、中には長さ1.8m、幅0.9m、深さ0.11mの掘り込みを持ち、大きく3回の操業が確認できる焼土遺構がみられる。周辺で確認された別の焼土遺構からは、骨片が出土していることから火葬墓の可能性もある。

2か年に及ぶ調査により、岩ノ下遺跡は居住域の北西から西側にかけて墓域を伴う可能性がある中近世集落跡であることが判明した。今後は、当時の集落内の生活や交易流通を探る資料となる遺構・遺物の分析を進めて本遺跡の特徴を明らかにするとともに、周辺遺跡との関連性を考察し遺跡の性格をより具体的に解明していきたい。

岩ノ下遺跡遠景
(北東から)



木製品（鋤の柄）
出土状況（南東から）



カマド状遺構検出状況
(南西から)



第2節 活用・普及事業

1 活用・普及事業一覧表

事業名は簡略化

	事業名	主な内容	開催時期など	対象
見 学	遺跡現地見学会	道女木遺跡	7 / 19	一般
		大堤沢遺跡	10 / 18	一般
展 示	企画コーナー展	埋文あきた発掘展	4 / 26～3 / 31	一般
	あきた埋文 出張展示	色で見るあきたの歴史	7 / 12～8 / 12	一般
		土器に生ける秋の草花展	10 / 4～10 / 13	一般
		あきた遺跡発掘最前線2025	2 / 28～3 / 10	一般
講 演 会 ・ 講 座	講演会	縄文時代から弥生時代への移り変わり	10 / 13	一般
	あきた埋文 考古学セミナー	子吉川流域の縄文時代	7 / 5	一般
		八郎潟沿岸の縄文時代	9 / 13	一般
		米代川流域の縄文時代	11 / 1	一般
	あきた埋文 金曜講座	山奥の縄文から古代	6 / 6	一般
		払田柵跡と古代横手盆地—施釉陶磁器からみる様相—	7 / 4	一般
		縄文の囲炉裏	8 / 1	一般
		久保田城、家老の屋敷を掘る	9 / 5	一般
		雄勝城、その実像に迫る	10 / 3	一般
		古代の火山災害と遺跡—米代川流域の奇跡の遺跡群—	11 / 7	一般
		縄文時代の文化交流～東北地方の北と南でみる文化の動き～	12 / 5	一般
		秋田の古代の瓦	1 / 9	一般
		横手市の発掘調査成果—鎌倉時代—	2 / 6	一般
	発掘調査報告会	今年度の県内遺跡発掘調査成果報告	3 / 7	一般
	県庁出前講座	発掘調査成果の講座等	通年	一般
体 験 教 室	オープンラボ	農業科学館バラフェスタ	6 / 8	小～一般
		払田柵跡ふるさと体験ワークショップ	10 / 15	小/親子
		農業科学館オータムフラワーフェスタ	10 / 25	小～一般
		各種体験教室	通年	小～一般
	払田柵跡関連	払田柵跡の歩き方	7 / 26	小/親子
学 校 ・ 研 修 等	セカンドスクールの利用	センター内・出土品見学、体験学習、出前授業等	通年	小/中/高
	インターンシップ 職場体験	出土品整理作業や活用・普及事業等の職場体験	通年	小/中/ 高/大
	博物館実習	考古資料の取り扱い、展示等	8 / 18～8 / 22	大
	中堅教諭等資質向上研修	施設・出土品見学、出土品整理作業体験等	本年度なし	教員
貸 出	貸し出しキット等	体験キット、映像資料等の貸し出し	通年	学校等
	資料貸し出し	収蔵資料の貸し出し、掲載許可	通年	一般
	レファレンス	県内の埋蔵文化財等に関する質問受付	通年	一般

2 遺跡現地見学会

発掘調査中の適切なタイミングで現地見学会を実施し、調査成果を県民に公開した。

(1) 道女木遺跡	期日：令和7年7月19日（土）	会場：秋田市	来場者：50人
(2) 大堤沢遺跡	期日：令和7年10月18日（土）	会場：横手市	来場者：23人

3 展示

(1) 常設展

これまでに発掘調査した遺跡の資料から特徴的なものを厳選し、旧石器時代から江戸時代まで時代順に展示した。

	開館時間	見学可能箇所（※は職員の案内によって可能）
平日	9:00～16:00	特別展示室・第1収蔵庫（※）・整理室（※）・中央調査チーム展示室
土・日・祝日	9:00～16:00	特別展示室

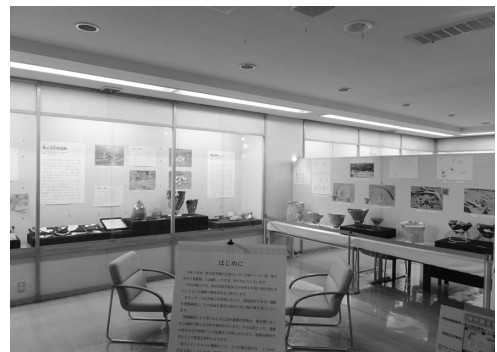
（休館日：1月1日～3日、成人の日、建国記念の日、春分の日、12月28日～31日）

(2) 企画コーナー展

特別展示室の4分の1を利用してテーマ展示を実施した。

テーマ：『埋文あきた発掘展』
期 間：令和7年4月26日（土）
～令和8年3月31日（火）
来場者：1,105人

埋蔵文化財に対する理解・浸透を図るために、当センターが発掘調査した遺跡の中で、発掘調査報告書を刊行した小平沢出口・小佛・北ノ又沢Ⅲ・神田の4遺跡について、解明した研究成果を広く県民に公開した。



展示状況

(3) あきた埋文出張展示

埋蔵文化財センター以外の会場で当センター収蔵資料やその地域の埋蔵文化財に関する最新情報などを展示し、地域の歴史や文化、埋蔵文化財に対する理解を深めた。

『色で見るあきたの歴史』
期間：令和7年7月12日（土）～8月12日（火）
会場：秋田県立図書館 来場者：2,800人

遺跡で見つかる出土品や遺構の「色」をテーマとした展示を企画した。出土品については大きく種別ごとに「石の色」「祈りの色」「装いの色」「器の色」の各章を設け、色に関する自然科学分析の成果も交えながら、色のもつ意味合いを解説した。遺構については「遺構の色」「色を測る」のトピックスを設け、県内重要遺跡の遺構写真を例として、土の色の要因を解説するとともに、発掘調査に欠かせない土色帖とその使い方を紹介した。



展示状況

『土器に生ける秋の草花展』

期間：令和7年10月4日（土）～10月13日（月）

会場：秋田県立農業科学館ホワイエ 来場者：2,393人

農業科学館のボランティアの方々より、センターで所蔵する土器に秋を感じさせる草花を生けてもらい展示した。今年度は池内遺跡（大館市）、家ノ前遺跡・智者鶴遺跡（由利本荘市）、小出IV遺跡（大仙市）、江原嶋1遺跡・虫内I遺跡・前通遺跡（横手市）、堀量遺跡・堀ノ内遺跡・臼館跡（湯沢市）の縄文土器を使用した。準備や運営にあたり、県立農業科学館に協力をいただいた。



展示状況

『あきた遺跡発掘最前線 2025』

期間：令和8年2月28日（土）～3月10日（火）

会場：秋田県立図書館 来場者：1,824人

秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会に合わせ、秋田県教育委員会及び市町村教育委員会、民間団体が今年度発掘調査を行った遺跡の出土品や写真を展示公開した。多くの方に調査状況や埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうため、報告会前後の期間に設定している。準備や運営にあたり、県立図書館や各市町村及び民間の調査機関に協力をいただいた。



展示状況

4 講演会・講座

（1）講演会

当センター主催で、県内の考古学に関わる講演会を開催した。

開催日：令和7年10月13日（月） 会場：秋田拠点センターALVE 参加者：74人

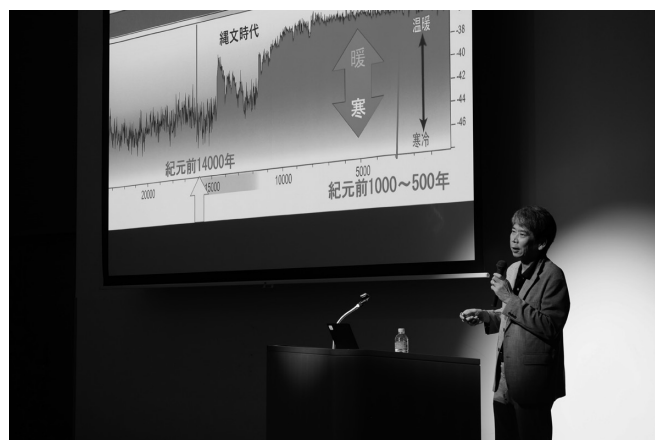
演題：「縄文時代から弥生時代への移り変わり」

講師：立命館大学 特任教授 矢野健一氏

矢野氏は、「食料からみた縄文の限界」「関西における縄文から弥生へ」「東北と関西の弥生の比較」という構成で、縄文時代と弥生時代の食料生産の比較、人口及び集落の推移、移行期における植物栽培の特徴、遺跡の立地と植生との関係性、弥生時代における東北地方と関西地方の集落規模や水田管理の相違点などについて講演した。

豊富な資料を基にした分かりやすい講話は説得力が高く、アンケートには好意的な感想

や意見が寄せられていた。講演をとおして、縄文時代から弥生時代への移行に関する理解が深まり、地域性や時代性について考察を巡らす良い機会になったと思われる。



講演会の様子

（２）あきた埋文考古学セミナー

本県の埋蔵文化財への理解を深めるためのセミナーを開催した。実施したセミナーは次のとおりである。

①「子吉川流域の縄文時代」

開催日：令和7年7月5日（土） 会場：由利本荘市文化交流館カダーレ

参加者：23人

講師：新海和広（調査チーム副主幹）

②「八郎潟沿岸の縄文時代」

開催日：令和7年9月13日（土） 会場：秋田市農山村地域活性化センターさとびあ

参加者：9人

講師：新海和広（調査チーム副主幹）

③「米代川流域の縄文時代」

開催日：令和7年11月1日（土） 会場：大湯ストーンサークル館（鹿角市）

参加者：12人

講師：新海和広（調査チーム副主幹）



考古学セミナー①（由利本荘市）の様子



考古学セミナー③（鹿角市）の様子

（３）あきた埋文金曜講座

本県の埋蔵文化財への理解を深めるために考古学や歴史学、民俗学などを題材に学ぶ。本年度は、当センター第1研修室を会場に次のとおり実施した。

①「山奥の縄文から古代」

開催日：令和7年6月6日（金）

参加者：18人 講師：小松和平（調査チーム文化財主事）

②「払田柵跡と古代横手盆地—施釉陶磁器からみる様相—」

開催日：令和7年7月4日（金）

参加者：29人 講師：小山美紀（秋田県教育庁払田柵跡調査事務所文化財主任）

③「縄文の囲炉裏」

開催日：令和7年8月1日（金）

参加者：13人 講師：森谷康平氏（秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室文化財主任）

④「久保田城、家老の屋敷を掘る」

開催日：令和7年9月5日（金）

参加者：21人 講師：宇田川浩一（調査チーム副主幹）

⑤「雄勝城、その実像に迫る」

開催日：令和7年10月3日（金）

参加者：28人 講師：高橋学氏（雄勝城・駅家研究会代表）

⑥「古代の火山災害と遺跡―米代川流域の奇跡の遺跡群―」

開催日：令和7年11月7日（金）

参加者：18人 講師：村上義直（中央調査チーム主任文化財専門員）

⑦「縄文時代の文化交流～東北地方の北と南でみる文化の動き～」

開催日：令和7年12月5日（金）

参加者：20人 講師：新海和広（調査チーム副主幹）

⑧「秋田の古代の瓦」

開催日：令和8年1月9日（金）

参加者：11人 講師：結城智（調査チーム文化財主事）

⑨「横手市の発掘調査成果―鎌倉時代―」

開催日：令和8年2月6日（金）

参加者：22人 講師：藤原正大氏（横手市教育委員会教育総務部伝統文化課主任）



講座の様子



講座の様子

（４）あきた県庁出前講座

県民の要請に応じて県職員が講師を務め、さまざまな情報提供等を通じて県事業等への理解を深めていただくとともに、生涯にわたる多様な学習機会の充実を図ることを目的としている。埋蔵文化財センターでも特長を生かした講座を行った。

①講座番号：190 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」

開催日：令和7年5月27日（火） 会場：八竜農村環境改善センター（三種町）

参加者：43人

講師：加藤竜（資料管理活用チーム副主幹）

②講座番号：190 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」

開催日：令和7年6月4日（水） 会場：史跡払田柵跡（大仙市・美郷町）

参加者：20人

講師：小山美紀（秋田県教育庁払田柵跡調査事務所文化財主任）

- ③講座番号：講座番号：192 講座名：「縄文クラフト講座」
開催日：令和7年7月31日（木） 会場：あすか児童クラブあきた中央（秋田市）
参加者：33人
講師：加藤竜（資料管理活用チーム副主幹）
堀川昌英（資料管理活用チーム主任学芸主事）
柴田浩一（資料管理活用チーム学芸主事）
- ④講座番号：193 講座名：「考古学体験Ⅰ」
開催日：令和7年8月4日（月） 会場：わくわく児童クラブ（美郷町）
参加者：50人
講師：加藤竜（資料管理活用チーム副主幹）
堀川昌英（資料管理活用チーム主任学芸主事）
柴田浩一（資料管理活用チーム学芸主事）
- ⑤講座番号：193 講座名：「考古学体験Ⅰ」
開催日：令和7年8月4日（月） 会場：みさとこども館（美郷町）
参加者：24人
講師：加藤竜（資料管理活用チーム副主幹）
堀川昌英（資料管理活用チーム主任学芸主事）
柴田浩一（資料管理活用チーム学芸主事）
- ⑥講座番号：講座番号：192 講座名：「縄文クラフト講座」
開催日：令和7年8月5日（火） 会場：キッズオアシス（秋田市）
参加者：19人
講師：加藤竜（資料管理活用チーム副主幹）
堀川昌英（資料管理活用チーム主任学芸主事）
柴田浩一（資料管理活用チーム学芸主事）
- ⑦講座番号：190 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」
開催日：令和7年10月4日（土） 会場：湯沢市役所
参加者：9人
講師：新海和広（調査チーム副主幹）

（５）埋蔵文化財発掘調査報告会

秋田県教育委員会及び市町村教育委員会、民間団体の実施した発掘調査成果を広く県民に公開し、埋蔵文化財の保護について理解を深めてもらうことを目的に、昭和56年度から発掘調査報告会を開催している。

令和元・２・３年度と新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたが、令和４年度から通常開催を再開した。今年度は令和８年３月７日（土）、秋田県生涯学習センター（秋田市）を会場として開催した。参加者は85人で、配布資料やスライドを見たり、報告を聞きながらメモを取るなど関心の高さを感じた。報告会に合わせて、出張展示「あきた遺跡発掘最前線2025」を県立図書館（秋田市）で開催した。

【報告内容】

- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| 1 道女木遺跡（秋田市） | 中央調査チーム文化財主査 武藤祐浩 |
| 2 藤兵エ沢遺跡（横手市） | 調査チーム文化財主事 久住駿介 |
| 3 大堤沢遺跡（横手市） | 調査チーム副主幹 宇田川浩一 |
| 4 史跡秋田城跡（秋田市） | 秋田市立秋田城跡歴史資料館 平井智規氏 |
| 5 造山遺跡（横手市） | 雄勝城・駅家研究会 高橋学氏 |
| 6 史跡払田柵跡（大仙市・美郷町） | 秋田県教育庁払田柵跡調査事務所
文化財主任 小山美紀 |
| 7 片貝家ノ下遺跡（大館市） | 中央調査チーム主任文化財専門員 村上義直 |
| 8 岩ノ下遺跡（由利本荘市） | 中央調査チーム文化財主任 乙戸崇 |
| 9 本県における水中遺跡への
取り組みについて | 秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室
文化財主任 安田創氏 |



会場の様子①



会場の様子②

（６）講座の動画配信

昨年度に引き続き、当センターで行われた講座を動画で記録した。当センターの調査研究成果の普及を図り、YouTube「あきた埋文チャンネル」で配信することで、広く県民が活用できる機会を提供した。

撮影動画 あきた埋文金曜講座「久保田城、家老の屋敷を掘る」

講 師：埋蔵文化財センター調査チーム 副主幹 宇田川浩一

公開日：令和７年９月16日（火）

5 体験教室

(1) 主な体験メニューと概要

目 的	活動名	主 な 内 容
縄文の暮らし に親しむ	縄文コースターづくり（縄文染め）	様々な縄文文様や土偶などの形にくり抜いた紙型を麻布に被せ、マジックペンで染め付けていくものである。個人のセンスで様々な色合いの作品に仕上げる。
	弓矢体験	竹刀の廃材を利用した竹材に、たこ糸を張って作った弓で、動物がプリントされた的を射る体験である。的には、縄文人が食べていた様々な動物がプリントされ、体験意欲をかき立てる。
	縄文衣装着用体験	麻布で作った縄文衣装を着用して着心地を確かめてみる体験である。
	火起こし体験	火きり杵（棒）と火きり臼（板）を利用した舞いきり法を中心に実施している。発火にいらなくても、成功体験が味わえるよう、①摩擦による発煙、②火だねづくり、③火だねからの発火、という3段階のチャレンジとして取り組んでもらうことにしている。また、もみきり法なども紹介している。
	ミニ土器 レリーフづくり	気軽に施文体験ができるよう、型枠に粘土を埋め込んで作ったミニ土器の表面（半面）を各種原体で施文し、オリジナルな土器レリーフを作るものである。
	縄文原体づくり	縄文土器や土偶に文様を施すための縄文原体を紙ひもで作し、粘土に文様を施してみる体験である。
	石器づくり	珪質頁岩や黒曜石を用いて、原石の打ち割りから矢尻やナイフの仕上げまで参加者のレベルに合わせて体験するものである。
	勾玉づくり	勾玉についての事前レクチャーをしたのち、勾玉キットを用いて製作する体験である。
整理作業の おもしろさ を知る	拓本体験	初心者でも安心して体験ができるよう、丈夫な須恵器の破片を利用する。打ち終わった拓本は、乾燥させラミネート加工してしおりに仕上げる。
	土器復元体験	細かなパーツに分解されたレプリカの土器を文様や割れ口などを手がかりにして組み立て、復元を目指す。

(2) オープンラボ

依頼者側と内容について打ち合わせを行い、次のとおり実施した。

体験教室（児童～一般）

- | | |
|--------------------|---|
| ①開催日：令和7年6月8日（日） | 会場：秋田県立農業科学館（大仙市）
申込団体：会場と同じ |
| ②開催日：令和7年7月24日（木） | 会場：能代市立二ツ井図書館
申込団体：会場と同じ |
| ③開催日：令和7年7月28日（月） | 会場：秋田市立桜小学校
申込団体：会場と同じ |
| ④開催日：令和7年7月29日（火） | 会場：秋田市農山村地域活性化センターさとびあ
申込団体：会場と同じ |
| ⑤開催日：令和7年7月30日（水） | 会場：田沢湖公民館（仙北市）
申込団体：会場と同じ |
| ⑥開催日：令和7年8月19日（火） | 会場：めだか児童クラブ（美郷町）
申込団体：会場と同じ |
| ⑦開催日：令和7年8月20日（水） | 会場：秋田県埋蔵文化財センター
申込団体：なるせ児童館「書道教室」 |
| ⑧開催日：令和7年10月15日（水） | 会場：史跡弘田柵跡（大仙市）
申込団体：大仙市観光文化スポーツ部文化財課 |
| ⑨開催日：令和7年10月25日（土） | 会場：秋田県立農業科学館（大仙市）
申込団体：会場と同じ |
| ⑩開催日：令和7年11月30日（日） | 会場：秋田市文化創造館
申込団体：秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室 |
| ⑪開催日：令和8年3月24日（火） | 会場：運動学習支援教室ふれんず
秋田南教室（秋田市）
申込団体：会場と同じ |

参加者：①82人、②16人、③7人、④15人、⑤8人、⑥43人、⑦19人、⑧40人、⑨63人、
⑩100人、⑪8人

内 容：①弓矢、縄文コースターづくり、出土品観察 ②縄文時代の学習、二ツ井地域の遺跡（茱萸ノ木遺跡）、出土品観察、縄文コースターづくり、弓矢 ③縄文時代の学習、縄文コースターづくり、弓矢、火起こし ④出土品観察、弓矢、火起こし、拓本しおりづくり ⑤火起こし、弓矢、縄文コースターづくり ⑥弓矢、縄文コースターづくり、土器復元 ⑦展示見学、縄文コースターづくり、弓矢 ⑧火起こし、弓矢 ⑨弓矢、縄文コースターづくり、出土品観察 ⑩光るミニストーンサークルづくり、縄文コースターづくり、拓本しおりづくり、土版くんづくり、ぬりえ、土器復元体験、石の持ち上げ体験 ⑪出土品観察、拓本しおりづくり、縄文コースターづくり、弓矢



拓本体験



弓矢体験

(3) 払田柵跡の歩き方

開催日：令和7年7月26日（土）

会 場：埋蔵文化財センター・史跡払田柵跡

参加者：12人

講 師：酒井浩氏（秋田県森林インストラクター会会長）

小山美紀（秋田県教育庁払田柵跡調査事務所文化
財主任）

史跡公園としての払田柵跡に親しみ、払田柵跡を取り巻く歴史と自然を体感しながら学ぶ活動を2時間にわたり実施し

た。草花の観察やそれに関わる和歌の紹介、遺跡の見学などを通して、払田柵跡の自然や歴史について学んだ。学校の夏季休業中ということもあって小学生を中心とした親子の参加が多く、活況を呈した。



活動の様子

6 学校利用・研修等

(1) セカンドスクールの利用

セカンドスクールの利用は、県教育庁生涯学習課が推進する事業で、教育施設等の人的・物的機能を十分に活用し、学校と教育施設等が一体となって、郷土の自然や文化との触れ合い体験・共同生活体験、各教科や総合的な学習の時間等の取組を複合的に実施する利用方法である。当センターでは、考古資料に触れる体験を中心に、社会科の学習や総合学習等をサポートしている。最近では歴史の学習に関する内容のほかに、センターの仕事内容や専門職員になるための進路などキャリア教育に関する内容も扱っている。また、来所利用に加え、センター職員が学校に資料等を持参して行う出前授業にも対応している。

①利用状況

	小学校	中学校	高等学校	その他	合計
利用件数	25件	2件	1件	0件	28件
利用人数	560人	28人	12人	0人	600人

②活動の具体例

出土品に触れてその特徴や用途などを考える

遺跡から見つかった本物の出土品（土器や石器など）に触れたり、観察しながら特徴や用途を考える。

施文体験

さまざまな施文用具を使い、粘土に縄文土器や土偶に見られる文様をつけてみる。

施設見学

特別展示室や整理作業室、収蔵庫で遺物や整理作業を見学する。

出前授業

縄文時代を中心に出土品を展示し、手で触れて肌で感じたり、観察することを通して各時代の学習を支援したり、地域の遺跡、文化財について紹介する。



施文体験の様子



展示室見学の様子

(2) インターンシップ・職場体験

①期間：令和7年9月9日（火）～9月11日（木）	会場：埋蔵文化財センター
生徒：秋田大学教育文化学部、岩手大学人文社会科学部3年生	計2人
②期間：令和7年9月17日（水）～9月19日（金）	会場：埋蔵文化財センター
生徒：大仙市立仙北中学校2年生	3人

インターンシップ・職場体験は、埋蔵文化財センターの仕事の体験を通し、勤労観や職業観を育むことを目的としている。対象者の学年や興味・関心に合わせた内容で実施。埋蔵文化財保護行政や埋蔵文化財センターの概要・役割に関する講話の後、施設及び払田柵跡の見学、発掘調査現場の見学、遺跡出土遺物の洗浄・注記・土器の接合等の整理作業を行った。興味を持って取り組む姿勢が印象的であった。



土器の接合作業

(3) 博物館実習

期間：令和7年8月18日（月）～8月22日（金）
会場：埋蔵文化財センター・道女木遺跡発掘現場
盛岡大学文学部社会文化学科4年生1人

「教育資源としての埋文センターの活用について」考察することをテーマとした。土器の復元、図書の収蔵や収蔵庫内の資料管理、及びセカンドスクールメニューの体験、新たな体験メニューの考案など、センター内での整理作業と資料管理活用業務の実習を行った。また発掘調査現場での計測や図面作成の実習を実地体験した。



遺物微細図作成の様子

(4) 中堅教諭等資質向上研修

今年度は申し込みがなく、実施しなかった。

(5) 市町村教育委員会職員実務研修

当研修は、市町村教育委員会から研修のため派遣された職員に対し、県の実務を行わせることにより事務又は技術を習得させ、もって市町村教育行政の円滑な運営に資することを目的に実施された。

当センターでは、由利本荘市教育委員会から主査1人を受入れ、4月1日から9月30日までの半年間、初任者研修、整理作業実習。6月3日から7月24日までは道女木遺跡、7月28日から8月27日までは岩ノ下遺跡、9月1日から9月25日までは大堤沢遺跡において発掘調査現場研修を実施した。



大堤沢遺跡での研修の様子

7 貸し出し等

(1) 貸し出しキット等

学校などに教材として活用できる次のキットやDVDの貸し出しを行った。

狩りと漁キット 土器資料キット 調理キット 縄文土器変遷キット 竪穴住居キット
原体・粘土キット 縄文衣装キット 火起こしキット 紹介DVD「ようこそ秋田の古代」

古代体験キット・ビデオ・火起こしの貸し出し実績

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
キ ャ ッ ト 貸 出 数	4 件	2 件	2 件
ビ デ オ 貸 出 数	1 件	0 件	0 件
火起こし 貸 出 数	1 件	0 件	0 件

(2) 資料貸し出し

資料の貸し出し・掲載許可等実績

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
所蔵資料貸出数	15 件	31 件	44 件

今年度の内訳

	使用目的（複数利用含む）		
	展示公開	書籍等掲載	研究他
遺 跡 出 土 品	8 件	0 件	1 件
フィルム写真データ	0 件	0 件	0 件
デジタル写真データ	6 件	21 件	2 件
そ の 他	0 件	1 件	5 件

(3) レファレンス

当センターでは県内の埋蔵文化財等に関する質問を受け付けている。令和2年度から質問内容の集計を始めた。今年度の県内外からの問い合わせ件数は次のとおりである。

旧石器時代0件、縄文時代1件、弥生・古墳時代2件、古代2件、中・近世1件、考古学一般7件、埋蔵文化財センターに関すること5件、その他照会等24件（合計42件）。

第3節 その他の活動

1 図書整理・公開

当センターで発刊した報告書等や他県などから送付された報告書等を登録、配架し、図書の利用環境を整備した。

全国文化財総覧への公開

秋田県文化財調査報告書第344集「小林遺跡」(PDF付加)

秋田県埋蔵文化財センター年報43

秋田県埋蔵文化財センター年報1～10(PDF付加)

秋田県文化財調査報告書第546集「立浪遺跡」

秋田県文化財調査報告書第547集「大鍋遺跡」

秋田県文化財調査報告書第548集「坂三塔遺跡」

秋田県文化財調査報告書第549集「福島遺跡・新城川遺跡」

秋田県文化財調査報告書第550集「虫内Ⅰ遺跡(第2次)」

秋田県文化財調査報告書第551集「遺跡詳細分布調査報告書」

2 刊行物

書名	秋田県埋蔵文化財センター年報 43 令和6年度	発行年月	7年8月
内容	秋田県埋蔵文化財センターの令和6年度の事業活動を総括し、沿革、組織・施設、令和6年度の歩み、事業の概要、運営協議会等を記載。事業の概要では、令和6年度に発掘調査した遺跡の概要、活用・普及事業の実績を掲載。		

書名	令和7年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料	発行年月	8年3月
内容	令和8年3月7日に秋田市で開催した令和7年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会の配付資料。令和7年度に県内で発掘調査した遺跡のうち、主要な遺跡の発掘調査成果について、カラー写真と平易な文章で紹介。県内発掘調査遺跡一覧表と遺跡位置図、年表も掲載。A4版カラー24頁。		

遺跡名	立浪遺跡	発掘調査年	4・5年度	発行年月	8年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第546集 立浪遺跡—国道13号横堀道路事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—				
内容	遺跡の時代	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古代			
	遺跡の性格	石器製作場・墓域(縄文時代) 墓域(弥生時代)			
	検出遺構 出土遺物	縄文時代：堀立柱建物跡3棟 竪穴状遺構1基 土坑18基 陥し穴状遺構1基 溝跡1条 柱穴様ピット106基 弥生時代：土坑1基			

遺跡名	大鍋遺跡	発掘調査年	4年度	発行年月	8年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第547集 大鍋遺跡—国道13号真室川雄勝道路事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—				
内容	遺跡の時代	縄文時代			
	遺跡の性格	野営地(縄文時代)			
	検出遺構	竪穴状遺構1基 柱穴様ピット3基			
	出土遺物	縄文土器 石器			

遺跡名	坂三塔遺跡	発掘調査年	5年度	発行年月	8年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第548集 坂三塔遺跡―地方道路交付金事業(改築)一般県道植田平鹿線(上都工区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―				
内容	遺跡の時代	縄文時代 古代 中世 近世以降 時期不特定			
	遺跡の性格	集落跡(縄文時代・古代)			
	検出遺構	縄文時代:土坑3基 フラスコ状土坑2基 陥し穴1基 古代:溝跡1条 中世:カマド状遺構1基 溝跡3条 近世以降:溝跡3条 時期不特定:溝跡7条 柱穴様ピット57基			
	出土遺物	縄文時代:縄文土器(中期・晩期後葉) 剥片石器(スクレイパー) 礫石器(石錘・磨石) 古代:土師器 須恵器 中世:陶器			

遺跡名	福島遺跡・新城川遺跡	発掘調査年	5年度	発行年月	8年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第549集 福島遺跡・新城川遺跡―交通安全対策事業(通学路緊急対策)主要地方道大曲大森羽後線(安良町工区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―				
内容	遺跡の時代	福島遺跡:縄文時代 新城川遺跡:縄文時代			
	遺跡の性格	福島遺跡:集落遺跡(縄文時代) 新城川遺跡:貯蔵域(縄文時代)			
	検出遺構	福島遺跡 縄文時代:フラスコ状土坑25基 土坑8基 土器埋設遺構5基 焼土遺構1基 捨て場1か所 柱穴様ピット72基 新城川遺跡 縄文時代:フラスコ状土坑2基 土坑1基			
	出土遺物	福島遺跡 縄文時代:縄文土器 土製品 石器 石製品 新城川遺跡 縄文時代:縄文土器 石器 土師器			

遺跡名	虫内Ⅰ遺跡	発掘調査年	6年度	発行年月	8年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第550集 虫内Ⅰ遺跡(第2次)―秋田自動車道の暫定2車線区間の4車線化事業(山内土淵工区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―				
内容	遺跡の時代	縄文時代			
	遺跡の性格	墓域・散布地			
	検出遺構	竪穴建物跡1軒 土坑10基 柱穴様ピット62基			
	出土遺物	縄文土器 石器(石鏃、石匙、磨製石斧、磨石、凹石、石皿) 石製品(石剣)			

書名	秋田県文化財調査報告書第551集 遺跡詳細分布調査報告書	発掘調査年	7年度	発行年月	8年3月
内容	令和7年度に実施した遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告。				

3 講演・研究論文等

令和7年4月

〈論文〉赤星純平・富樫那美「道南部および北東北における緑色岩製磨製石斧の製作技術と流通について」 『令和6年度縄文文化特別研究報告書』 函館市縄文文化交流センター

令和7年5月

〈発表〉乙戸崇「国内出土金彩かわらけに関する研究－文献史学的考察と出土傾向－」 江戸遺跡研究会 第194回例会

令和7年7月

〈論文〉赤星純平「縄文時代における磨製石斧の遠隔地産石材の利用と流通－秋田県域を中心に－」 『駒澤考古』第51号 駒澤大学考古学研究室

令和7年8月

〈報告・討論〉小山美紀「出羽国北部の様相」 東北古代土器研究会研究集会『古代東北出土の施釉陶磁器』 東北古代土器研究会事務局

令和7年11月

〈論文〉村上義直「平安期の十和田噴火と災害伝承（米代川流域）」 『季刊 考古学』第173号 雄山閣

令和8年2月

〈論文〉富樫那美「秋田県内における土坑墓出土の磨製石斧について」 『秋田考古学』第69号 秋田考古学協会

4 職員研修会

今年度も、職員研修を計画・運営した。人材の育成は常にセンター経営上の課題である。今後も職員間でさらに連携を取りながら、さまざまな研修を計画・運用することが求められる。

(1) 職員研修

- ①期 日 令和7年6月27日(金)
- ②場 所 埋蔵文化財センター、埋蔵文化財センター中央調査チーム
- ③進 行 袴田道郎 副所長
- ④研修内容 「女性の健康に関する研修」

職員の健康増進と働きやすい環境づくりのため、全ての職員が女性の健康に関して理解を深め、健康管理休暇等を取得しやすい職場づくりを進める必要があるため研修を実施した。

「なぜ、女性の健康対策が必要か」「女性の健康課題 ～更年期～」等のビデオ資料を視聴し、意見交換会を実施。今後のよりよい職場作りへの参考とした。

(2) 職員技術研修会

今年度は実施しなかった。

(3) 職員研修

- ①期 日 令和7年12月19日(金)
- ②場 所 埋蔵文化財センター
- ③講 師 袴田道郎 副所長
- ④研修内容 土器復元作業研修



研修の様子

整理作業での土器復元における新素材の使用方法を紹介し、実際に使ってみることによって今後の土器復元作業の技術向上を目指し実習を行った。

(4) 防災・避難訓練、救急救命講習

実施日：令和7年5月23日(金) 防災・避難訓練(地震)／中央調査チーム ※栗田支援学校合同

実施日：令和7年11月5日(水) 防災・避難訓練(地震・火災)・救急救命講習／本所

(5) 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議

期間：令和7年10月30日(木)～10月31日(金)
会場：札幌市埋蔵文化財センター
視察：丘珠縄文遺跡体験施設・展示室、北海道博物館



丘珠縄文遺跡展示室

会議は札幌市の運営によってスムーズに進められた。猛暑等への対応が話題となるほか、調査員の資格取得状況、古いフィルムの管理状況、ちょうど時期だったため熊への対策についてなど活発な情報交換が行われた。視察では丘珠縄文遺跡体験施設や展示室、北海道博物館を見学した。とくに北海道博物館の視察では、収蔵庫の管理について状況を説明していただき、保存と活用の実際について理解が深まった。

第5章 運営協議会

1 委員：高橋忠彦委員長、吉川寿朗副委員長、安杖千佳子委員、伊藤竜喜委員、上田満委員
星野友実委員、武藤浩紀委員、和田英範委員、渡部育子委員

2 事務局：大泉所長、袴田副所長、佐々木総務チームリーダー、新海調査チームリーダー
村上中央調査チームリーダー、加藤資料管理活用チームリーダー、堀川主任学芸主事

3 第1回：令和7年6月19日(木) 14:00～15:50

(1) 案件 ① 令和6年度事業報告

② 令和7年度事業計画

③ 本年度の事業等についての提言

(2) 意見・提言・要望等(抜粋)

○地域振興局としてはPRの部分で役に立てる。展示や講演会など各種事業のPRをXやInstagram、SNSで紹介できるので、情報をいただければと思う。

○地元に払田柵跡があり、金曜講座や報告会などでいろいろと教えていただき大変ありがたい。小学校でも払田柵跡や埋蔵文化財センターの展示や作業の様子を見学している。引き続き御指導をお願いしたい。

○大曲仙北地区の学校の利用が多く、横手地区の学校の利用が少ない。同じ県南地区だが横手地区で認知がされていない様に思う。以前の協議委員から貸出キットの利用を勧められ、借りたことがあった。貸出キットがあるということを周知できると、利用したいと思うこともあるのではないかな。興味を持って利用できるキットだった。

○地元の史跡に触れるため6年生がセカンドスクールで訪問し学習している。5月から6月の初めには2・3年生も払田柵跡で地元にはこのような史跡があることを現地で見ながら知識を得ている状況である。「払田柵跡の歩き方」について、昨年度は30人の募集で12人の参加とのことでもったいない感じがした。地元にいながらこのような取り組みがあるということを知らない子どもたちもいるのではないかと思い、宣伝したいと思った。

○岩ノ下遺跡から注目される木簡が出てきており、払田柵跡でも漆紙文書の出土例があることから、予算上の措置が課題ではあると思うが、必要であれば新しい性能のよい赤外線テレビカメラの購入を検討していただきたい。

○教職員は異動で勤務先の学校が変わっていくが、社会科を専門としている者は、赴任した際に学校の所在する市町村史を見る。そこには遺跡のことも説明されている。ただ、地理的に詳しくない学校に行ったりするとなかなかイメージできないこともある。出前授業をお願いしたときに、学校が立地している近くの遺跡を紹介するなど、子どもたちが遺跡を身近なものとして感じられるような内容も入れてもらえればありがたいと思う。

○秋田県の歴史はいつから人が住みはじめて、その後の時代の秋田をもっと分かりやすく説明してもらう機会があれば良い。金曜講座で1年間、秋田の歴史を語るような講座を行ってもらえると楽しいのではないかな。旧石器時代からの秋田県の通史を取り扱う講座があるとよい。

○展示で、時代・時期名のあとに(〇〇年前)と表示しているところと表示していないところがあ

る。できれば、表示してもらった方が分かりやすい。子どもたちもそれによってある程度は歴史をつなげていけると思うので、考慮してほしい。

4 第2回：令和8年2月9日（月）14:00～15:10

（1）案 件 ① 令和7年度事業報告

② 第1回運営協議会における提言と対応について

③ 令和8年度事業計画案

（2）意見・提言・要望等（抜粋）

○参加者数推移を見ると若干講演会や座学は減っている。セカンドスクール等の事業の方は好調なので、もう少し参加していただけるように、がんばっていただきたい。

○冬場の金曜講座の回数を減らす計画はよい。今年度は史跡払田柵跡と雄勝城の回で参加者が多い。調査の報告ができる時期に講座の日程を調整するとよい。

○猛暑、クマの出没等、大変なことが多い調査活動だが、安全に気をつけて進めていただきたい。

○縄文時代は狩猟や採集を行っていたと一般的にとらえられているが、ある遺跡では、調査概要に狩猟道具がほとんど出土せず、採集中心の生活をしていただいたのではないかと書かれている。子どもたちにとってみれば、自分の学校のそばにある遺跡で教科書通りの知識と違う発見があり、興味がわくと思う。調査報告がまとまった遺跡の近隣学校へ、センター側から「出前授業に行きます」と売り込む形で広げていくのも手ではないか。

○本校では子どもたちに歴史を大好きになって地域のことをもっとよく知ってもらいたいと考えている。埋蔵文化財センターのホームページを見て、展示室見学などのセカンドスクールや解説を聞いたり体験したりできる出前授業など、小学生が歴史を学ぶための取り組みが様々あることが分かった。学校では前年踏襲のカリキュラムを組みがちで、授業のねらいに合わせてセカンドスクールや出前授業をお願いするような形になる。センターのメニューを知らない場合もあるので、学校へのPRを広げていただきたい。

○カリキュラムが変わり6年生の社会は最初に公民分野を勉強している。以前は4月から歴史を勉強し縄文時代から始まっていたが、後ろの時期に歴史の授業がずれ込んでいる。各学校が動き出し、体制が整ってから歴史を学ぶことができるので、学校としてはよいと思う。

○コロナ後の修学旅行では、大曲仙北地区や横手地区の学校のほとんどが仙台等に行く。コースの中で、歴史を学ぶような博物館を見学する学校もあるが、もったいないように思う。仙台に行って仙台の歴史を学ぶのではなく、地元にあるよいものを学んでほしい。

○学校には年間計画があり、計画の中で6年生の活動が伝統的に継続されている。PRの方法として、年度当初の校長会で直接説明するのが効果的である。まず校長先生を動かしてみる。委員の校長先生からセンターの取り組みを紹介してもらうことも一つの方法である。資料を見ると、ある小学校は3年生ではフィールドワーク的な活動、6年生では社会の学習として利用している。こうした取り組みは、大曲仙北地区の活用例として広げることもできると感じた。距離的に遠い横手、湯沢地区では出前授業ができるということをPRして人数を増やしていただきたい。このすばらしい施設をいかに活用するか。小学生に興味・関心を持ってもらい、専門的なことを学びたいという子

どもたちは将来大人になっても講座に来ると思う。そのように裾野を広げてほしい。

○払田柵の歩き方等、夏の企画は夏休みをねらって行っていると思うが、暑さが厳しいため、時期を10月中旬の秋休みにずらすことも一つの方法である。中学校の利用が少ないが、社会科担当教員や校長会に対し、授業に組み入れることができるような材料や活用例を示せば需要はある。現在の授業では、黒板だけでなく、映像などの資料をたくさん使用しているが、本物にはなかなか触れる機会がないため中学校も開拓してほしい。

○新聞での生涯学習課文化財保護室吉川氏の連載記事は、子どもでも分かりやすく、発掘の楽しさや不思議、魅力などを発信しており、子どもたちにとっても非常にインパクトがあることだと思う。専門的な内容だと子どもの理解が追いつかない場合もあるので、連載記事のようにかみ砕いた内容である取り組みやすいと思う。

○小学校でもキャリア教育が重視されており、発掘という仕事や考古学という専門的な学問を職業にしている人たちの働き方や働きがい、モチベーション、仕事に就いたきっかけなどについて、出前授業の中などで子どもたちに話していただくと子どもたちが職業を知る機会になる。

○以前、大曲仙北社会科教育研究会にセンター職員が体験キット等を持参し、先生方に紹介するという企画があった。若い先生が非常に増えており、そのような内容を知らない先生もたくさんいるので、周知するチャンスが来ている。

○校長会を利用する案、是非利用してセンターから働きかけてほしい。参加者数の推移で、全体で1,000人くらい減ってきている。様々な事業は発展的に解消して、新しい事業を作り出すことなどを考えていくのもよい。9年度に向けて大変難しいことかもしれないが、検討してほしい。

令和7年度 職員名簿

	職 名	氏 名
	所長	大 泉 真
	副所長	袴 田 道 郎
総務チーム	副主幹（兼）チームリーダー	佐々木 敬 隆
	副主幹	高 橋 皇 司
	主事	佐々木 美 晴
調査チーム	副主幹（兼）チームリーダー	新 海 和 広
	副主幹	宇田川 浩 一
	学芸主事	白 石 和 己
	文化財主査	赤 星 純 平
	（兼）文化財主任（本務：弘田柵跡調査事務所）	小 山 美 紀
	文化財主事	久 住 駿 介
	文化財主事	小 松 和 平
	文化財主事	結 城 智
	（併）主査（由利本荘市教育委員会）	佐々木 博 之
資料管理活用 チーム	副主幹（兼）チームリーダー	加 藤 竜
	主任学芸主事	堀 川 昌 英
	学芸主事	柴 田 浩 一
	学芸主事	千 葉 学
中央調査チーム	主任文化財専門員（兼）チームリーダー	村 上 義 直
	学芸主事（兼）シニアエキスパート	磯 村 亨
	副主幹	高 橋 麻 衣
	学芸主事	櫻 庭 悦 央
	学芸主事	山 村 剛
	文化財主査	武 藤 祐 浩
	文化財主査	巴 亜 子
	文化財主任	富 樫 那 美
	文化財主任	乙 戸 崇

秋田県埋蔵文化財センター年報44

令和7年度

発行 令和8年8月

秋田県埋蔵文化財センター

〒014-0802 大仙市払田字牛嶋20番地

電話 (0187) 69-3331

FAX (0187) 69-3330

URL <https://common3.pref.akita.lg.jp/maibun/>

